



中国語教育学会第18回全国大会（オンライン大会） 報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清原, 文代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017696

中国語教育学会第18回全国大会（オンライン大会）報告

清原文代

（大阪府立大学）

1. 開催までの経緯

中国語教育学会第18回全国大会は当初2020年6月6日～7日に大東文化大学で開催される予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染が拡大し、全国大会準備委員会は大会開催のために様々な方策を考え尽力されたが、理事会は大東文化大学での開催を断念した。

ただ、すでに全国大会の発表の採択は行われており、開催中止は研究成果の発表の機会を失うことを意味する。新型コロナウイルス感染拡大という状況下にあっても研究活動を継続する方法として理事会においてオンライン大会の開催¹⁾が提案された。試行として事前にオンライン研究会を開催する²⁾などの方策を講じた上で、本学会としては初めて全国大会をオンラインで開催することとし、4月に入ってからオンライン大会のための全国大会準備委員会が新たに組織された（以下、準備委員会と称す）。準備委員会はもし委員の誰かが感染しても業務を進行できるように全ての業務に複数の要員を割り当てて二重化し、例年より多い計10名の委員で構成された。大会の開催方式の変更に伴い、発表者に対して発表意思の確認を行ったところ、準備委員に就任した1名を除き全員が発表する意思を表明し、大会を開催することが正式に決定した。

なお、本オンライン大会については、技術的な面で中心的な役割を担った氷野委員による報告、氷野善寛2020a, 氷野善寛2020b, 氷野善寛2020cがすでに発表されているので本稿と合わせてご覧いただきたい。

2. 大会の概要

2.1 大会プログラムと参加者数

初日に理事会、模擬授業（理事会と並行開催）、会員総会、懇親会に代わるものとして談話会が行われた。2日目には2つの分科会に分かれて口頭発表計16本及びアフターセッションが開催された³⁾。参加申し込み者は計308名、書店・出版社の出店は計11社であった。

2.2 開催費用

個人については会員、非会員を問わず参加費は無料とした。書店・出版社については団体会員は無料、非会員の団体については1社当たり2000円とした。個人について無料参加としたのは初めてのオンライン大会ということで、その成否に絶対的な確信が持てなかったことが大きい⁴⁾。その結果、約11万円の開催費用のほとんどが学会からの支出となったが、その約6割を占めたのは従来通り発送した紙の開催案内の印刷代と郵送料であった。

3. 参加者アンケートによる評価

オンライン大会終了後にGoogleフォームを使用したアンケートを行い、参加者申し込み者の約3割に当たる計106名（個人会員74名、団体会員7名、非会員25名）の回答を得た。なお、各項目について回答は必須とはしていない。

3.1 アンケート結果の概略

各企画について5件法によるアンケートを行った。大会の主要部分である分科会に対する回答結果は以下の通りである。

表1 分科会の回答結果（回答数 87 名）

5（とてもよかった）	50.6%
4	25.3%
3	21.8%
2	1.1%
1（よくなかった）	1.1%

その他の企画については回答総数と5（とてもよかった）の割合を挙げておく。

表2 模擬授業、談話会、アフターセッションのアンケート結果概要

模擬授業	71名	50.7%
談話会	45名	55.6%
アフターセッション	61名	73.8%

アフターセッションにおいて5の割合が高いのは、テーマが「明日からの遠隔授業で使える小ネタ」であり、眼前の問題に対処するための情報源として歓迎されたことがアフターセッションに対する感想（自由記述）から読み取れる。

3.2 自由記述の概略

オンライン大会でよかった点について83名が記入した。以下に同様の意見が複数あるものをまとめた。1名の記述の中に複数の観点がある場合はそれぞれ1件と数えた。

表3 オンライン大会でよかった点

開催地への移動が不要である	56件	67.5%
質問しやすい	7件	8.4%
分科会の移動が容易である	6件	7.2%
スライドが見やすい	6件	7.2%
今後も対面とオンラインの並行開催を希望する	5件	6.0%
育児中でも参加可能である	4件	4.8%
オンライン開催だったので参加できた	4件	4.8%
参加費が無料だった	3件	3.6%

オンライン大会でよくなかった点について66名が記入した。以下に同様の意見が複数あるものをまとめた。1名の記述の中に複数の観点がある場合はそれぞれ1件と数えた。

表4 オンライン大会でよくなかった点

参加者と個別にコミュニケーションする機会がない	21件	31.8%
質疑応答の方法に改善が必要である	7件	10.6%
顔が見られない	6件	9.0%

目や耳が疲れる	6件	9.0%
音声不良などのオンライン会議の不調	4件	6.0%
書店にとって利益が少ない	4件	6.0%

3.3 アンケートのまとめ

開催地に移動しなくてよいというオンラインの利便性を高く評価する一方で、挨拶や名刺交換、休憩時間中に話をするといった場所を同じくするが故のコミュニケーションの機会がないことへの不満が見られる。学会大会は学術研究の成果を発表する場であると同時に、研究者同士のコミュニケーションの機会として期待されていることがわかる。また、本大会の質疑応答はZoomのチャットを使用した、プラス評価とマイナス評価が拮抗している。

4. 開催方法

4.1 Zoomによる大会開催、Slackによるバックヤード

大会はオンライン会議システムのZoomを使用して開催した。オンライン会議システムは複数あるが、Zoomを選んだ理由はZoomのアカウントを取得しなくても主催者が発行するオンライン会議のIDとパスコードがあれば参加でき簡便だからである。準備委員会側は複数の委員がヶ月分の有料アカウントに切り替えた上で、更に300名を超える申し込み者があったため、大規模オプション（500名まで参加可能）を追加した。

Zoomの設定項目は多岐に渡るが、大会で使用した設定の主な部分を挙げておく。

- (1) 共同ホスト ON
- (2) 画面共有 ON（但し画面共有できるのはホストのみ）
- (3) ブレイクアウトルーム ON
- (4) ホスト前の参加 ON
- (5) チャット自動保存 ON
- (6) 注釈 OFF
- (7) 遠隔操作 OFF
- (8) プライベートチャット OFF
- (9) 参加者ビデオ OFF

(10) 招待リンクにパスコードを埋め込む OFF

(1) (2) (6) (7)は発表者、司会者、Zoom運営担当者のみが会議の画面をコントロールできるようにするためである。(3)は初日の談話会のためのものである。(4)は通常OFFにすることが多いが、今回はホストが通信障害で会議から落ちてしまったときも参加者が会議に入って来られるようにするためにONとした。

更に準備委員会は準備の段階から無料で使えるビジネスチャットツールのSlackを使用して情報の共有と打ち合わせを行い、大会当日もZoomの裏でSlackを開き、Slackで随時連絡を取り合いながら大会を進行した。

4.2 申込受付と会議IDとパスコードの配布

学会Webサイト及び会員メーリングリストを使った大会開催案内に加えて、従来通り紙による案内も会員の自宅に郵送した。オンライン大会が珍しいものでなくなった現在は紙による案内は廃止してもよいと思われる。

申込受付はGoogleフォームを使用した。氏名、メールアドレス、所属先、会員・非会員の別などを記入してもらい、以下の項目に同意していただくことで申込完了とした。

- (1) 誰でも見られる場所にZoomのURLを書かない。
- (2) Zoomの会議室の中では本名@所属先を名乗る。
- (3) Zoomの接続環境は自分で用意する。
- (4) ヘッドセットまたはイヤホンを使用する。

(1)は所謂「荒らし」対策、(2)は「荒らし」対策であると同時にオンラインでも対面の大会と同様に「名札」をつけて参加していただくためである。(3)については準備委員会には個々の参加者の技術サポートをする余裕がなかったことによる。(4)は音質の向上のためである。

各企画、各分科会のZoomのIDとパスコードについては学会Webサイト内にパスワード付きの学会大会特設Webページを設置し⁵⁾、申込者には同WebページのURLとパスワードを開催数日前に準備委員会のメールアドレスから送信した。但し、大量のメールを手動で送るのはエラーメールへの対応などもあり作業量が非常に多くなるので今後

は避けた方がよい。オンラインイベントの普及に伴って現在ではPeatix, こくちーずプロ, PassMarket等, オンラインイベントの参加者募集, 申込受付, 参加費徴収, 会議のURLの通知までを一貫して行えるサービスが複数登場しているので, 今後オンライン大会を開催する場合はこれらのサービスを使用することを考慮すべきだろう。

4.3 分科会の進行手順

準備委員会で原案を作り, 準備委員会と分科会の司会者がZoomで行った打ち合わせ時に出た意見を反映し, 下記の通り進行手順を定めた。また, 進行手順を定めた後に, 発表者のZoom接続テストも兼ねて司会者と発表者の打ち合わせを行った。

表5 分科会進行手順

(1)	Zoom運営 担当者	分科会に入った時点で全員のマイクをミュートにする。 Zoom運営担当者より発表中は発表者と司会者以外はマイクミュート, カメラOFFにするように依頼。
(2)	Zoom運営 担当者	発表者を共同ホストにする(画面共有のため)。発表者のマイクミュートを解除。 司会者を共同ホストにする。司会者のマイクミュートを解除。
(3)	司会者	発表者の紹介。
(4)	司会者	質問は今後随時チャットに書くように指示。必ず全員宛(皆様宛)で書くことを指示。
(5)	発表者	画面共有で発表, カメラをONにするかどうかは発表者判断による。
(6)	Zoom運営 担当者	20分になった時点で, マイクONで「20分です。」と伝える。
(7)	司会者	チャットから質問を選んで, 司会者が発表者に尋ねる。冒頭で質問者の氏名と所属を紹介する。

		質問意図の確認など、必要があれば、質問者本人にマイクONで話してもらう。
(8)	Zoom運営 担当者	30分になった時点で、マイクONで「30分です。」と伝える。
(9)	Zoom運営 担当者	発表終了後に発表者の共同ホストを解除する。 司会交代時に司会の共同ホストを解除する。

4.4 分科会の発表成立条件

対面の大会が台風で開催中止になることがあるが、オンラインの大会もオンライン会議システム自身の障害や発表者自身の通信障害や機器の不具合によって発表ができないことがありうる。そのため以下の通り発表成立の条件を策定し、事前に発表者に通知した。

大会当日にZoom側の不具合により大会そのものが開催できなかった場合は、下記の(1)～(4)を以て発表成立と見なす。

(1) PowerPointのファイル、及び20分間の発表動画を提出する。

(2) (1)を一定期間、パスワード付きWebページで公開。

(3) 参加登録者に(2)を通知し、準備委員会がメールによる質問を一定期間受け付け、発表者に転送する。

(4) 発表者は(3)の質問に対してメールで準備委員会に返答し、準備委員会が質問者に転送する。

大会は開催できたが、当日に発表者側の通信環境の不調などの理由で、当該発表者のみがオンライン会議に出席できなかった場合は、下記の方法(5)～(8)を以て発表成立と見なす。

(5) 開催前の指定の日時までPowerPointファイル、または20分間の発表動画が準備委員会に提出されていれば、それをZoom運営担当が上映する。

(6) その場でZoomのチャットで質問を受け付ける。

(7) 準備委員会が発表者に(6)の質問をメールで送る。

(8) 発表者は質問に対して準備委員会にメールで返答し、準備委員会は返答を質問者に転送する。

(9) 指定の日時まで(5)の提出がなく、全国大会当日Zoom会議に参加できなかった場合は発表辞退と見なす。なお(5)の提出は義務ではない。

4.5 分科会の質疑応答のフォローアップ

司会者との打ち合わせの際にZoomのチャットに多数の質問が書かれた場合、質疑応答の時間内に適切な質問を取り上げることができるかどうか不安を感じるという意見があったため、チャットは全て自動記録し、準備委員会が開催後に当日に返答した質問も含め全ての質問を各発表者にメールで送ることとした。発表者から質問に対する返答が準備委員会にあった場合は、発表者のメールアドレスがわかる形で質問者に転送し、以降のやりとりは発表者と質問者に任せた。この質問の転送は発表者からも質問者からも好評であったものの、全て手動で行ったため作業量が多かった。

Zoomのチャットは本来オンライン会議の補助的手段で、自分が会議に参加する前のチャットを遡って閲覧することができず、会議が閉じられればチャットを見ることができなくなる。当時はZoomの普及が始まったばかりで、Zoom以外のツールを導入するのは参加者への負担を考えると難しかったが、現在であれば質疑応答のために別のツール、例えばSlack, Slido, Google Jamboard, Padlet等を導入することを検討すべきだろう。

4.6 理事会及び会員総会

理事会、会員総会で賛否を問う際には、事前に選択肢を設定したZoomの投票機能を使用した。但し、Zoomの専用アプリではなくWebブラウザから参加している場合は投票することができないことを周知する必要がある。

4.7 書店、出版社への対応

書店出版社も本学会の団体会員であり、参加者にとっては大会開催時に書店出版社のブースを回って書籍を手にとって各社の社員と話すことも学会大会の楽しみの一つである。今回は以下の形で各団体に大会参加を呼びかけた。

- (1) Zoomによる相談会、即売会
- (2) 学会大会特設Webページへの情報掲載

(3) 各社教材を使用した模擬授業

(1) のZoomの会議室は書店出版社側が準備し、学会大会特設WebページにIDとパスワードを掲載した。参加者は大会中に各社が設定した時間に自由にZoomの会議室を訪問することができた。(2) は各社のWebページへのリンク、所定のページ数以内のPDFファイルを学会大会特設Webページを閉鎖する2020年6月末まで掲載した。(3) は準備委員会側がZoom会議室を運営し、書店出版社は教科書名を出してもよいが宣伝活動を行わないという条件で募集した結果、1社から応募があり、準備委員会で企画書を審査の上、関根謙慶應義塾大学名誉教授によるオンライン模擬授業が実施された。

アンケート結果では、今回の書店出版社企画の認知度は94%（回答総数100名）と非常に高かったが、(1) のZoom会議室を訪問したと回答したのは21.2%（回答総数99名）と低かった。普段の対面の大会で書店出版社ブースに「必ず行く」「行く」と答えた人は合わせて77%（回答総数96名）であったので、議題があつて討論するために会議を開くというZoomの仕組みが書店出版社展示には向いていないことがわかる。今後オンライン大会で書店出版社展示を行う場合は、他のシステム、例えばフロアにテーブルが複数並び、テーブル間を参加者が自由に移動するというインターフェースを持つRemoなど他のシステムの使用を検討すべきである。

4.8 談話会

初日の懇親会に代わるものとして、Zoomによる談話会を開いた。3つの会議室を同時並行で開き、参加者は途中自由に会議室を移動できることとした。各会議室のホストは男女双方を含む複数とし、勤務地も考慮してホストと参加者の間になるべく何らかの共通点を持てるように準備委員をホストとして割り振った。各会議室の進行はホストに任せたが、何も話題がないと話しにくいと考え、オンライン授業を共通テーマとした。筆者も談話室のホストを務めたが、ファシリテーターを決めるルールを指定した上でブレイクアウトルームを数回開き、突然のオンライン授業へのとまどいや困りごとを比較的少人数で共有してもらうように心がけた。

5. オンライン授業に関するアンケート

上記の談話会に備えて準備員会では大会開催前に会員及び非会員を含む参加登録者に対してオンライン授業に関するWebアンケートを記名で実施した。アンケート結果は学会大会特設Webページに2020年6月末まで掲載し、参加登録者が閲覧ダウンロードできるようにした。

5.1 回答数、校種、役割、科目種

同じ教員が担当していても科目の種類によって実施形態が異なる可能性があることや非常勤講師として複数校に勤務している場合を考え、回答は科目ベースで募集した。回答総数は91件であるが、1人の回答者が複数の科目について回答しているため、回答者の異なりは63名である。

表6 校種（回答数90）

大学・短大・高専	92.2%
高校	3.3%
専門学校	1.1%
語学教室	1.1%
上記以外	2.2%

表7 勤務校での役割（回答数89）

専任教員	59.6%
非常勤講師	37.1%
学校・学部・学科の授業責任者	1.1%
上記以外	2.2%

表8 科目種（回答数90）

第二外国語の中国語	64.4%
中国語学科などの専攻中国語	17.8%
ゼミや演習	7.8%
講義	4.4%
上記以外	5.6%

5.2 オンライン授業の形式と到達度

表9 オンライン授業の形式（回答数90）

同時双方向型 (Zoomなどを使用したリアルタイム授業)	41.1%
ブレンド型 (非同期型と同時双方向型の併用)	31.1%
非同期型 (オンデマンド)	24.4%
上記以外	3.3%

表10 主な授業形態と学習到達度

	わからない	去年より劣る	去年より少し劣る	去年と同等	去年より少し良い	去年より良い
同時双方向	40.5%	0%	18.9%	24.3%	10.8%	5.4%
ブレンド	25.0%	14.3%	10.7%	25.0%	17.9%	7.1%
非同期	45.5%	13.6%	9.1%	9.1%	18.2%	4.5%
全体	37.4%	7.7%	14.3%	19.8%	15.4%	5.5%

オンライン授業が始まってまもない時期のアンケートであり、どの授業形態においても「わからない」という回答が最も多いのは当然である。授業形態の違いによって学習到達度に若干の差が見られるが、これまでなかった新しい授業形態に習熟する途上の教員の感覚によるものであり、授業形態の違いが学習到達度に与えている影響は不明である。

5.3 勤務校からの援助

表11 勤務校からの援助（複数選択可，回答数88）

資料集や説明書を掲載したWebサイトの設置	70.5%
-----------------------	-------

オンラインによる研修	59.1%
資料集や説明書の配布（紙）	35.2%
メールによる相談窓口の設置	34.1%
電話による相談窓口の設置	13.6%
対面式の研修	12.5%
機器やネット環境を整備するための費用支給	10.2%
上記以外	17.0%

5.4 自由記述

自由記述は2種類のテーマで回答を募った。オンライン授業について現時点での感想や意見があればお書き下さいという設問には70件の回答があった。以下に同様の意見が複数あるものをまとめた。1件の記述の中に複数の観点がある場合はそれぞれ1件と数えた。

表12 オンライン授業についての感想や意見

(1) 授業準備や添削の負担が増加	22件	31.4%
(2) 疲労	12件	17.1%
(3) 学生の学習状況の把握が困難	10件	14.3%
(4) 発音指導が困難	6件	8.6%
(5) 学生の参加度の向上	6件	8.6%
(6) 通信環境の不調	5件	7.1%
(7) 学生の学習量の増加	5件	7.1%
(8) 学生間格差の増大	4件	5.7%
(9) オンライン授業は不便、オンライン授業を早くやめたい	4件	5.7%
(10) 順調に進行している	4件	5.7%
(11) 学生の学習環境に差がある	3件	4.3%
(12) 不正行為の防止が困難	2件	2.9%
(13) 成績評価への不安	2件	2.9%
(14) 個別指導の時間が減少	2件	2.9%
(15) 個別指導が対面より容易	2件	2.9%
(16) 反転授業の将来的な導入	2件	2.9%

(1) (2) (3) (4) (6) (8) (9) (11) (12) (13) (14) とオンライン授業の消極的側面を述べるものが圧倒的に多く、突然始まったオンライン授業への適応の難しさを示している。その一方で数は非常に少ないが(10)のように順調に進行していると述べているもの、(5) (7) (15) (16)のようにオンライン授業の可能性を感じている意見もある。

オンライン授業に関して他の中国語教員に共有可能な知識、技能、方法、アイデア、Tipsなどがあればお書き下さいという設問には42件の回答があった。詳細な授業案を記入してくださった回答も複数あったが紙幅の関係でここでは省略させていただく。設問の性質上、重複する内容はほとんどなかったが、大きく分けるとツールの利用法や利便性の紹介と、授業構成に関する工夫である。前者としてはGoogle ClassroomやTeamsを使った教材提示・小テスト・課題提出・課題へのフィードバック、Zoomを使ったグループプレゼンテーション、Zoomの投票機能や挙手機能を用いた即時性や双方向性を重視した活動、GoogleドキュメントやGoogleスライドの共同編集機能を使ったグループワーク等があった。また後者については、解説動画は短く作る、教員は間合いをとって話す、授業のみで完結させず自主学習が不可欠になるように課題や教材を設計する等があった。

6. 終わりに

本報告はオンライン大会、オンライン授業の比較的初期の記録である。現在ではオンライン大会については各学会で様々な形態で開催されて経験知が蓄積されている。オンライン授業についても2020年春の時期に比べれば各教員の対応能力は飛躍的に向上していると考えられる。必要に迫られて始まったオンライン授業、研究活動を止めないための改善の策として始まったオンライン大会ではあるが、将来新型コロナウイルスの感染が収束した時、わたしたちは恐らく単純に以前の状態に復帰するのではなく、今回の経験から得た新たな知識知見を元により良い教育研究活動を実行できると信じて、ここに記録を残すこととする。

注

- 1) 日本教育工学会は信州大学で開催予定であった2020年春季全国大会を中止してオンラインで開催し、その開催ノウハウなどの資料を3月にWeb上で公開しており、先行する事例として参考になった。
<https://cril-shinshu-u.info/archives/1473>
- 2) 中国語教育学会2020年度第1回研究会（緊急企画「中国語の遠隔授業をデザインする」）2020年4月25日オンライン開催。
各校でオンライン授業が開始されようとしていた頃で、時宜を得た企画ということで申込上限の200名の参加登録があった。プログラムについては下記Webページに掲載されている。
<http://www.jacle.org/meeting-20200425/>
- 3) 中国語教育学会第18回全国大会のプログラムの詳細については下記Webページに掲載されている。
<http://www.jacle.org/annual18/>
- 4) オンライン大会に使用したオンライン会議システムZoomは急激なユーザー増加のためか、2020年5月に数時間に渡る大規模接続障害を起こしている。
- 5) 学会サイトが接続過多でダウンした時に備えて、氷野委員が個人的に借りているサーバに複製ページも用意してもらったが、使用せずに済んだ。

参考文献

- 氷野善寛2020a.中国語教育学会のオンライン全国大会、『トンシュエ』60：12-13頁
- 氷野善寛2020b.中国語教育学会のオンライン全国大会、『東方』476：12-17頁
- 氷野善寛2020c. 中国語教育学会のオンライン全国大会の事例報告、『漢字文献情報処理研究』19：131-136頁